

キタムラサキウニ養殖に関する技術開発

共同研究機関：北海道大学水産学部、(株)北清、

(公財)函館地域産業振興財団 北海道工業技術センター

協力機関：松山水産技術普及指導所瀬棚支所、ひやま漁協大成支所

研究の背景・目的

キタムラサキウニは日本海沿岸の重要な漁業対象種であるが、同海域では海藻類の繁茂が芳しくないことから、身入が悪く漁獲量や単価の低迷が生じている。このような状況を打開するため、カゴ養殖による身入改善が試みられている。このうち、養殖コンブを餌料としたキタムラサキウニ養殖は身入・味ともに良い製品を作ることができることが明らかになっているが、養殖コンブは春先にしか入手できないという季節的な制限がある。そのため、コンブに代わる餌料として野菜、雑海藻、魚肉など様々な検討が行われてきたが、餌料の保存性・可食部の味（または臭い）・可食部の色などに課題があり、実用的なコンブ代替餌料は見出されていない。このような状況から、季節を問わず手軽に入手でき、保存性がよく、製品化時の品質も良い養殖餌料の開発について生産者から強い要望がある（H31研究ニーズ No. 40、384）ことから、本申請の共同研究グループではキタムラサキウニの可食部の肥大機構に着目した配合餌料を開発して室内試験での有効性が示されているが、海面養殖での有効性は検証されていない。

研究内容

①配合餌料を用いたキタムラサキウニの養殖条件の検討

キタムラサキウニ

ウニ用配合餌料

※写真は2019年時点のもの

飼育密度・給餌条件・季節の検討

歩留まり目標15%以上

②養殖キタムラサキウニの可食部の品質調査

養殖に用いたウニの大きさ・成熟度・年齢

関連性検証

食味アンケート

生殖巣色調解析

期待される成果

本研究により、配合餌料を用いたキタムラサキウニ養殖の基本的な飼育条件と、それにより得られる可食部の品質が明らかになる。また、養殖に用いるキタムラサキウニの状態と出来上がりの製品の関連性が明らかになる。

研究成果の活用

- キタムラサキウニ養殖に取り組みながら餌不足を感じている浜に対し、配合餌料を用いた場合の養殖の効果および用いるにあたっての基本となる生産条件を示すことができる。
- 配合餌料を用いてキタムラサキウニ養殖を行った際の出来上がりの可食部品質について、用いるキタムラサキウニの条件との関連性を考える上での基礎的な資料として活用できる。